

福島稲荷神社縁起

鎮 座 地

三田市福島守下龍王谷 137 番地

御 祭 神

正一位稲荷大明神 保食神

御 神 徳

五穀豊穰・商売繁盛・無病息災・諸願成就

祭 日

夏祭 /7 月 18 日 田楽（市指定無形民族文化財）、獅子神楽奉納
秋大祭 /10 月第 2 日曜日 田楽、獅子神楽奉納、御神輿、檀尻巡行

営 造 物

本殿は弊殿及び拝殿を配した流造

境 内 社

戎神社……祭神は農業・商業神である事代主尊
三坂山神社……祭神は農耕神である宇賀魂命
祇園神社……祭神は除疫神である牛頭天王

境 内

約四百四十坪

由 緒

当神社は穀物の起源神である保食神を奉祀し、
産土神としては三田市内で唯一の稲荷神社である。
かつて、村の東北東に位置する八幡字栄ヶ谷に鎮座する
八幡神社（祭神 應神天皇）を産土神としていたが、
安土桃山時代の天正年間（1573 年～ 1951 年）に
村内の稲荷神社を産土神とした。
明智光秀の丹波攻めに際して、当村にあった光徳寺が
青野村青林寺と共に敵対する
篠山八上城主波多野秀治に兵糧を送ったため、
これに怒った光秀が光徳寺を焼き払い、その時稲荷神社も類焼した。
そこで八幡、稲荷の両社を合併して産土神としようとしたが、
度重なる事故に相い、稲荷神社のみを田社地の宇赤江から
字下龍王谷に移転して社殿を再建した。
江戸時代に至り、天災によって社殿を焼失したことから、
元禄二年（1689 年）正月に造営の談合なし、
六十余人の人々が力を合わせて資金を調達、
同年十二月に遷宮し造営がなったとの棟札が残されている。
また、神宮寺として世應山普門寺の名が見られる。伝説として
「毘沙門社、恵比寿社、巖島社、琴平社、大歳社、八幡社あり、
当社を合わせて七社なり、これを俗に七福神とし、村名を福島と称した」と
村名の由来が伝えられている。
しかし、時の三田藩主が稲荷神社を除く六社の社殿を破壊し、
神木を伐り倒して社地を開墾させ、藩の稲の種取り場とした。
その後も社殿の再建を許さなかったので、村人は見るに忍びず相談のうえ
各私有地に小祠を建て霊代を遷して私社として祭祀した。
今も地区内に点在する各社は、区民により毎年祭礼が執り行われている。
本殿に残された棟札によると、
宝暦二年（1752 年）に再建したことがわかる。
さらに明治十三年（1880 年）に柿藁春日造の本殿を造営したが、
昭和二十九年（1954 年）九月の台風 15 号により
境内の老杉三本が倒れ社殿が全壊、同三十三年秋再建された。
現在の社殿は、平成十九年（2007 年）五月に再建、
引続き戎神社の完成を待って 11 月 17 日に
正遷宮奉祝祭を挙行了たものである。

平成20年1月吉日

福島稲荷神社氏子中